

DDX-sub•sub W. G. 会合議事録

1. 日 時 昭和58年7月6日(木) 13:30~17:00
2. 場 所 原研 東海研 研究2棟335号室
3. 出席者 6名(敬称略, 順不同)
中沢, 井口(東大), 菊池, 山野(原研), 中田(川重),
南(富士通)

4. 議 事

(1) 前回議事録確認等

(2) FAIR-DDX コードの検証

角度メッシュの内挿に対する感度(Reconstruction Tolerance)およびエネルギー群構造をパラメトリックに変えた場合のFAIR-DDX出力結果が報告された。それらの比較, 検討の結果, 感度の違いによる影響は, ほとんどめられず, 又群構造が異なる場合にも, 全般的に, ほぼ妥当な結果が得られていることが確認された。

(3) エネルギー分解能の決め方に関する検討

阪大OKTAVIANの実験結果について, エネルギー分解能の決定要因の検討を行ない, 実験配置に基づく不確実性が問題であることが指摘された。結局, エネルギー分解能は, 実験ごとに異なるため, 内容を熟知している実験者自らが評価し, DDXの実験データファイル中にその情報を入れるべきとの意見が出された。

(4) その他

FAIR-DDX コードの検証が一応終了したことに伴い, DDX実験データとの比較プロット作業の最終的な仕様およびスケジュールについて検討された。FAIR-DDX に対して, 簡略化およびマニュアルの作成が要請され, 又, DDX-PLOT に対しては,

- FAIR-DDX 出力の矩形表示(成分別)
- 実験データの誤差表示
- 非弾性散乱連続レベル上限の角度依存性を考慮する機能

が付け加えられた。

なお、DDX-PLOT の第一版では、グラフ表示に ARGUS ルーチンを用い、機をみて、もっと汎用性の高いプロットルーチンに置換していくことが了承された。